

■伊波普猷 沖縄民俗学の創始者。

いばふゆう

三つの反乱・1876＝ 琉球の那覇で、士族身分の素封家の長男に生まれる。

琉球処分・1879＝ 3歳：この年、琉球処分が強行されて沖縄県となり、県民に反日感情が高まる。

明治14年政変1881＝ 5歳：

内閣発足・1885＝ 9歳：

帝国大学始・1886＝10歳：母の尽力で、沖縄師範学校附属小学校に入学。

県民の反日感情が薄れるなか、

帝国憲法発布1889＝13歳：

足尾鉍毒始・1891＝15歳：沖縄尋常中学校に進み、

日清戦争始・1894＝18歳：国語教師として赴任した田島利三郎の影響を受け、

日清戦争終・1895＝19歳：県民によりやく日本の中の沖縄意識が醸成されるなか、沖縄人に英語は不要と英語の廃止を唱えた児玉喜八校長の排斥ストを指導し、校長を県外に追放するも退学処分となり、

白馬会・1896＝20歳：校長の転任で事件が終了後、処分仲間と上京、

八幡製鉄始・1897＝21歳：中卒の資格を得て高等学校を受験するも失敗、以後、数年間受験しては失敗するという苦悶の時代を送るうち、沖縄を内面的に発見し、

ピアノ国産化・1900＝24歳：ようやく京都の第三高等学校第一部文科に入学したが、

田中正造直訴1901＝25歳：神経衰弱に陥って精神的放浪を重ね、仏教やキリスト教にも接するうち、琉球の文化・歴史への学問的関心を抱き、郷土の新聞に沖縄の現状を憂えた「琉球史の瞥見」を投稿し、

教科書疑獄・1902＝26歳：「琉球に於ける三種の民」を発表する。

日比谷公園・1903＝27歳：卒業し、東京帝大に新設された言語学科に入学。田島利三郎採集の「琉球語学材料」を譲り受け、琉球研究の手始めとして、オモロの私講義を聴講。

日露戦争始・1904＝28歳：夏期休暇で帰省し、鳥居竜蔵の沖縄調査を手伝う。同期生や1年下の金田一京助と新村出の講義を聴講。

日露戦争終・1905＝29歳：

満鉄発足・1906＝30歳：卒業すると、直ちに帰郷して文献・民俗資料の収集を始め、小論発表や講演による啓蒙活動にも努める。

韓国反日暴動1907＝31歳：沖縄教育会主催の講演会で「郷土史に対する卑見」を述べ、

アヲテ創刊・1908＝32歳：先島地方へ講演と調査旅行、

伊藤博文暗殺1909＝33歳：日本メソジスト沖縄中央教会で沖縄語によるキリスト教講演をし、「琉球文基督教教役者必携」を刊行。初代沖縄県立図書館長を囑託される。

韓国併合・1910＝34歳：この頃、比嘉春潮が図書館を訪れ知り合う。

大逆事件判決1911＝35歳：*「琉球人種論」を処女出版、「琉球史の趨勢」「古琉球」刊行。沖縄の地割制度調査に訪れた河上肇と親交。

明治天皇没・1912＝36歳：

大正政変・1913＝37歳：児童の情操教育をはかるため、自宅を開放して「子供の会」を始める。

民本主義・1916＝40歳：同志とともに、新聞人・演劇人を網羅する「沖縄演劇協会」を設立。

ロシア革命・1917＝41歳：比嘉春潮とともに、エスペラントの学習サークル「緑星倶楽部」を結成。

ベトナム条約・1919＝43歳：「血液と文化の負債」と題する民族衛生講演活動を開始。「沖縄女性史」を刊行。

原敬首相暗殺1921＝45歳：*柳田が来沖し、オモロ研究の大成を促されて、「おもろさうし」校訂に着手し「おもろ選釈」を起稿、続いて折口が沖縄旅行に訪れて会い、以後両者と親交。沖縄県立図書館の正式な館長となる。

水平社結成・1922＝46歳：「古琉球の政治」刊行。

関東大震災・1923＝47歳：再び沖縄を訪れた折口信夫の学風を敬愛するようになり、

護憲三派圧勝1924＝48歳：「おもろさうし選釈」を刊行すると、図書館長の職を投げ打ち、

治安維持法・1925＝49歳：「校訂おもろさうし」刊行。*長い髭を剃り落とし、妻子を捨てて若い女性と駆け落ちする形で、上京したが、東京にポストは無く、以後清貧に甘んじながら、研究に専念、

日本時代始・1926＝50歳：「浄土真宗沖縄開教前史」「琉球古今記」「孤島苦の琉球史」を刊行。

共産党事件・1928＝52歳：在住沖縄県人会に招かれてハワイ旅行し、各地で沖縄史を講演。

世界恐慌・1929＝53歳：「校訂琉球戯曲集」を刊行。

海軍軍縮条約1930＝54歳：

満州事変・1931＝55歳：

五一五事件・1932＝56歳：「琉球館訳語」の研究に従事。佐佐木信綱から所蔵の琉歌の鑑定依頼。田島利三郎の死を知る。

帝人疑獄事件1934＝58歳：「南島方言史攷」を刊行。

芥川直木賞始1935＝59歳：国学院大学で半年間オモロの講義。日本民俗学会で研究成果を講演。

二二六事件・1936＝60歳：還暦記念論文集「南島論叢」。「久米仲里間切旧記」が発見され、

日中戦争始・1937＝61歳：三論文の改訂を迫られる。病氣療養のため伊豆の温泉に滞在。

健保+総動員1938＝62歳：「琉球戯曲辞典」刊行。力作「をなり神の島」、

第二次大戦始1939＝63歳：「日本文化の南漸-をなり神の島続編」を刊行。

日米開戦・1941＝65歳：

.....1942＝66歳：共編で「琉球史料叢書」発刊。「沖縄考」など、毎年のように論を刊行してきたが、

創価学会検挙1943＝67歳：関西旅行の途次、30余年ぶりに河上肇と邂逅。

敗戦・.....1945＝69歳：東京大空襲で蔵書や家財道具一切を焼失し、比嘉春潮宅に寄寓。

新憲法公布・1946＝70歳：初代沖縄人連盟会長に推されるも、ますます不遇となり、

新憲法施行・1947＝71歳：行く末を案じた「沖縄歴史物語」を脱稿してまもなく、脳溢血のため比嘉宅で、没した。その他、「沖縄女性史」「校訂おもろさうし」「をなり神の島」「琉球歴史物語」など著書多数。